
2012年3月期
第2四半期 決算説明会

2011年11月8日
蛇の目マシン工業株式会社

2012年3月期 第2四半期 連結決算概要

2012年3月期 第2四半期 連結決算の要点

1. 円高や、生産拠点の現地通貨高による原価率上昇等で、前期比減収減益
2. 新興国市場向けマシン販売や、アジア市場向け産業機器製品の販売は順調に推移
3. 東日本大震災によるサプライチェーンの影響は想定を下回る

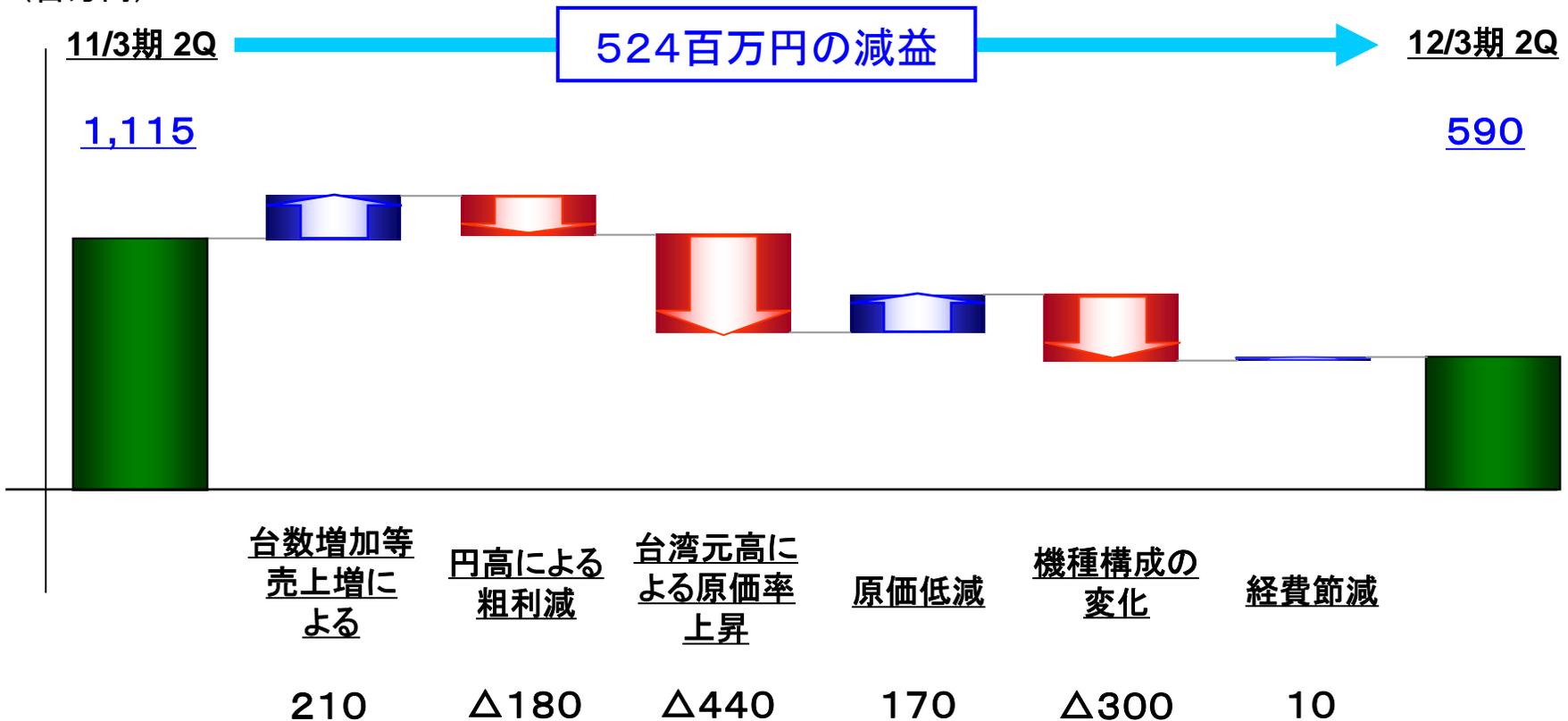
業績の概要①

(百万円)

	11年3月期 2Q実績	12年3月期 2Q実績	増減 (前期比)
売上高	17,811	17,529	△282
売上原価	10,015	10,270	254
売上原価率	56.2%	58.6%	2.4P増
営業利益	1,115	590	△524
営業利益率	6.3%	3.4%	2.9P減
経常利益	980	708	△271
経常利益率	5.5%	4.0%	1.5P減
当期純利益	567	380	△187
為替レート (円/US\$)	88.93	79.80	△9.13

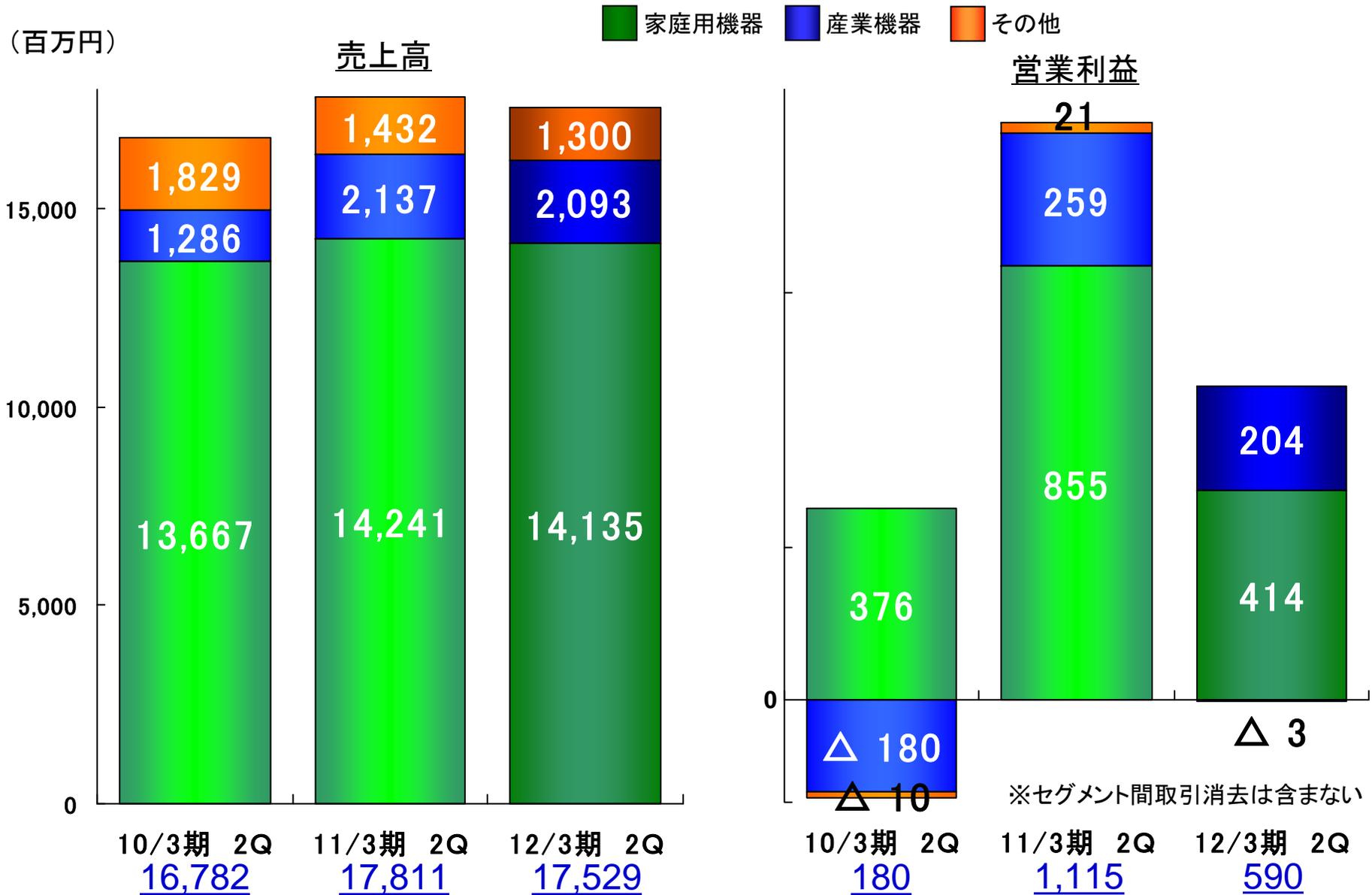
営業利益の増減要因

(百万円)

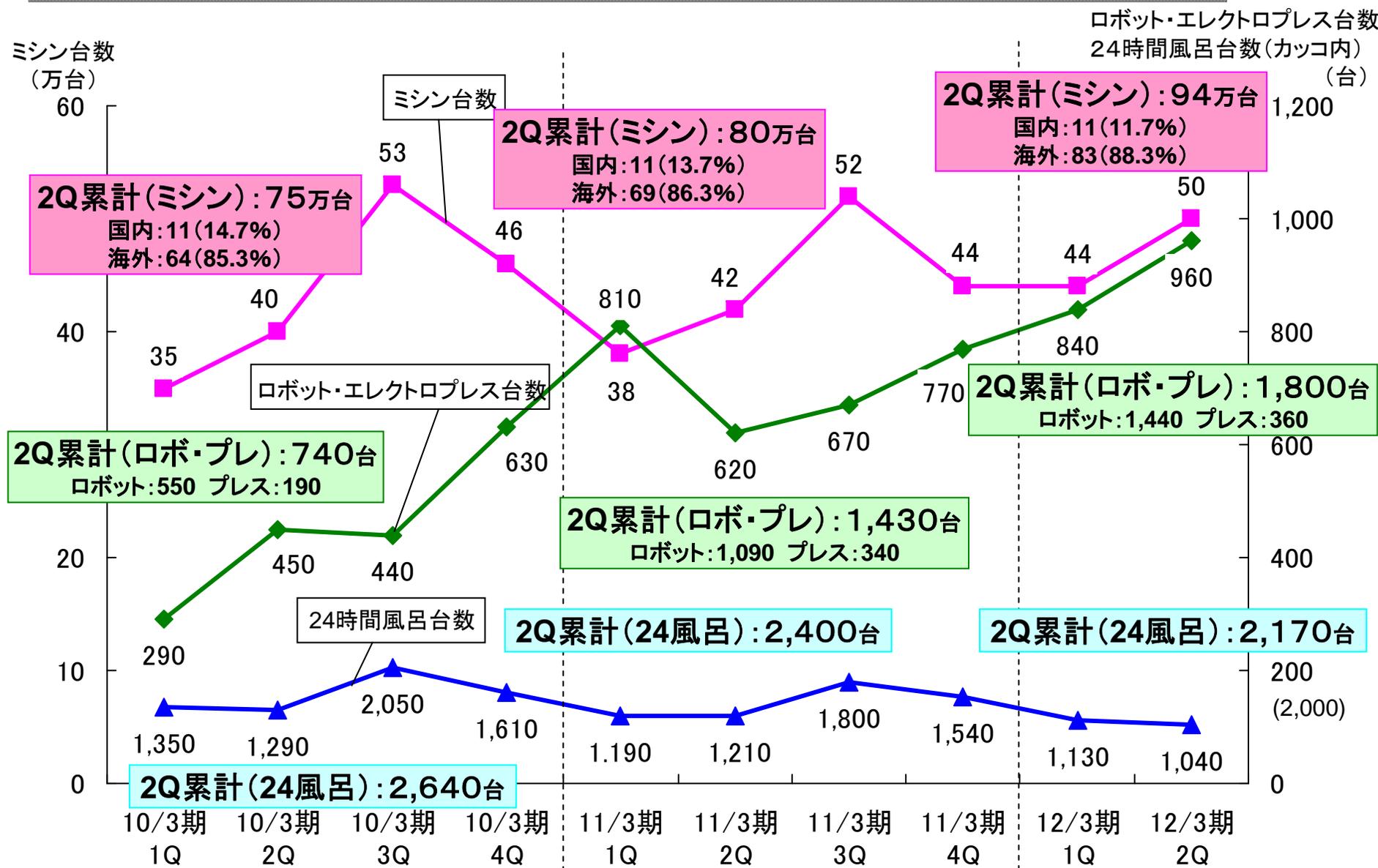


※震災の影響額は売上高で約150百万円、営業利益で約60百万円

業績の概要②(3カ年比較)



販売台数四半期推移



セグメント別概要【家庭用機器事業】

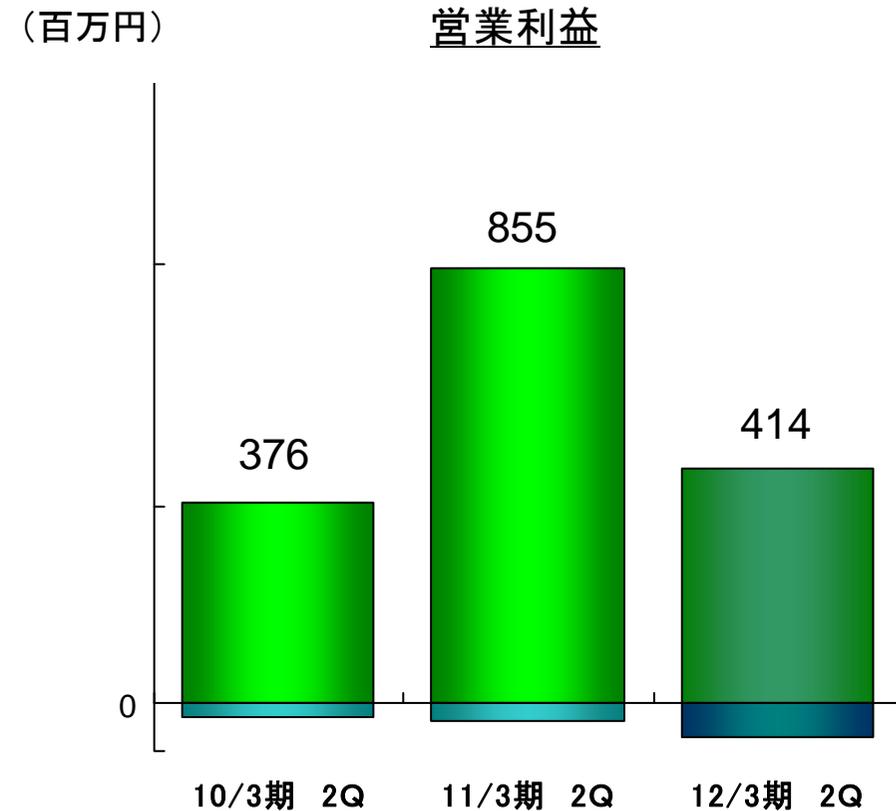
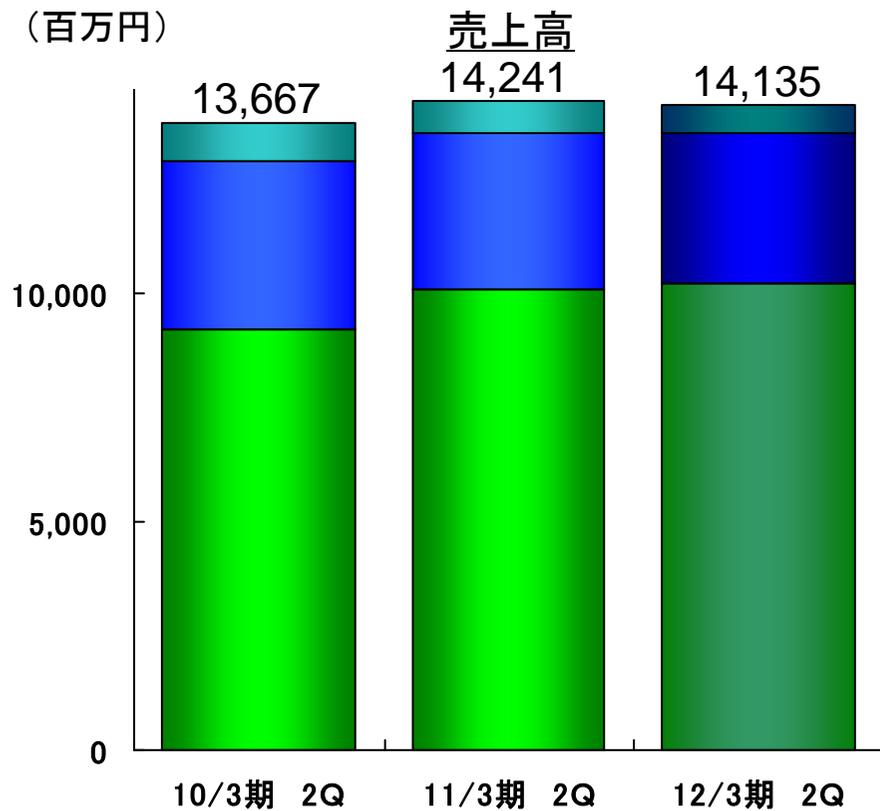
【海外ミシン販売】

- 積極的な販売展開で、新興国市場を中心に販売台数増加
(ロシア/CIS前期比約4万台増、中東・アジア約8万台増)
- 円高の中、海外ミシンの売上高はほぼ前年並みを維持

【国内ミシン販売】

- 国内市場は震災以降、消費者の節約意識の高まりが影響

セグメント別売上高・営業利益【家庭用機器】



* 売上高明細 (億円)

海外マシン	90	101	102
国内マシン	39	34	33
24風呂、整水器	8	7	6

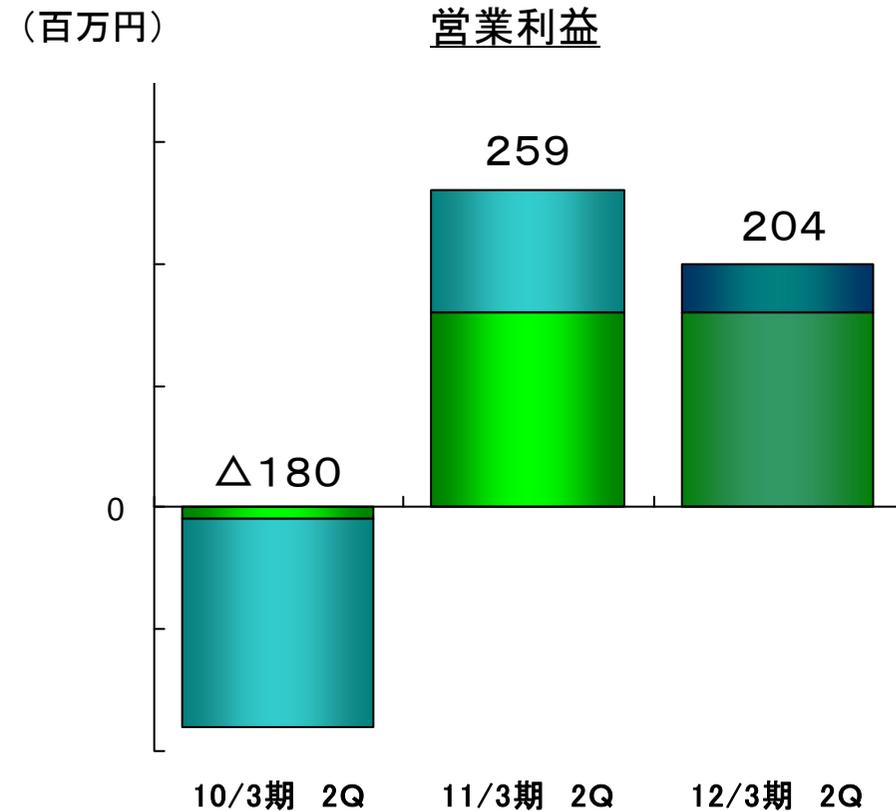
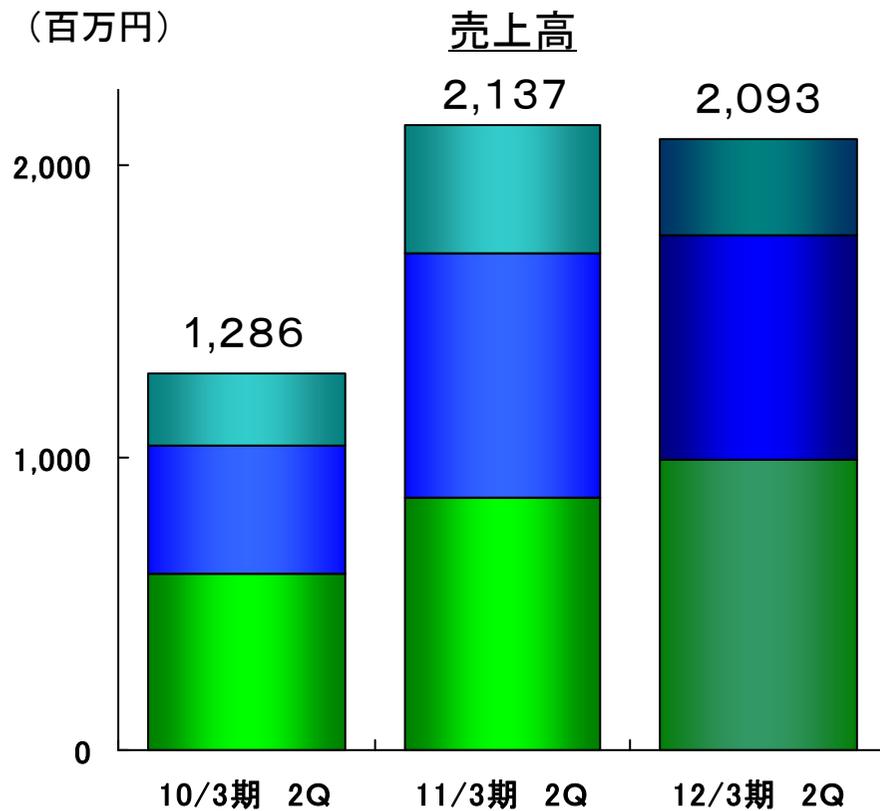
* 営業利益明細 (億円)

マシン関連	4.1	8.9	4.8
24風呂、整水器	△0.3	△0.4	△0.7

セグメント別概要【産業機器事業】

- 卓上ロボット、エレクトロプレス販売は、中国や韓国等のアジア市場を中心に好調に推移
- ダイカスト事業は、主に震災後の自動車関連を始めとする国内企業の生産調整等の影響で、前期比減収減益

セグメント別売上高・営業利益【産業機器】



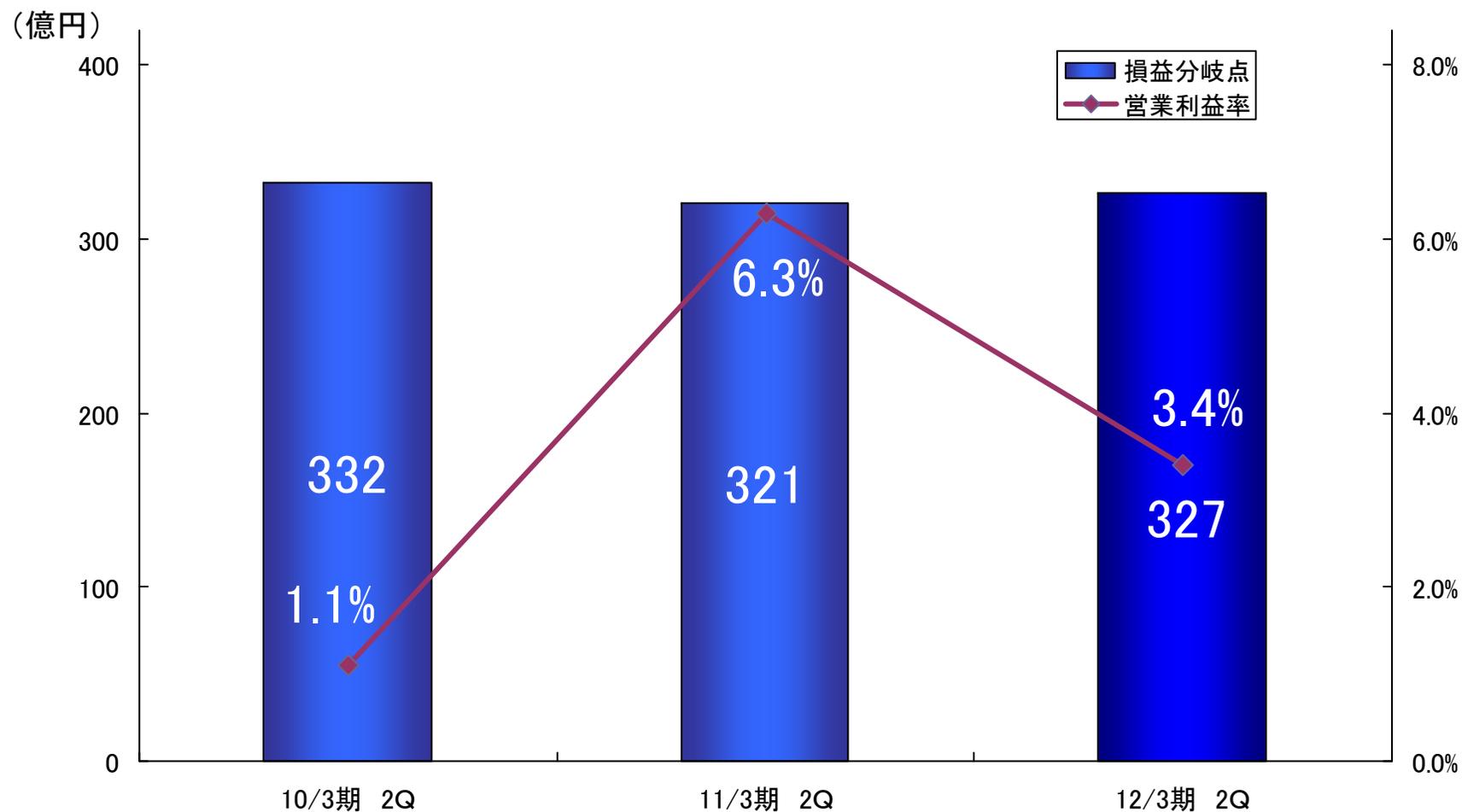
* 売上高明細(億円)

ロボット・プレス	6.0	8.6	9.9
ダイカスト事業	4.4	8.4	7.7
インプリンター他	2.5	4.4	3.3

* 営業利益明細(億円)

ロボット・プレス 他	Δ0.1	1.6	1.6
ダイカスト事業	Δ1.7	1.0	0.4

損益分岐点売上高



* 損益分岐点売上高:2010年3月期、2011年3月期は通期実績値
2012年3月期は2Q累計の損益分岐点売上高を年換算した数値

貸借対照表(連結)

(百万円)

	前期末	当期第2四半期末	増減
資産の部			
流動資産	19,385	19,053	△332
固定資産	29,704	29,256	△448
資産合計	49,090	48,309	△781
負債の部			
流動負債	16,937	17,242	305
固定負債	18,036	17,401	△635
負債合計	34,973	34,643	△330
純資産の部			
資本金	11,372	11,372	—
利益剰余金・自己株式	△2,499	△2,098	401
その他	5,242	4,390	△852
純資産合計	14,116	13,665	△451
負債・純資産合計	49,090	48,309	△781

キャッシュフロー(連結)

(百万円)

	11年3月期第2四半期	12年3月期第2四半期
営業活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前当期純利益	871	638
減価償却費	445	458
売上債権の増減	△ 235	△ 1,097
たな卸資産の増減	△ 683	△ 718
仕入債務の増減	549	717
その他	△ 15	△ 22
営業活動によるキャッシュフロー	932	△ 21
投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の売却	176	65
その他	△ 452	△ 501
投資活動によるキャッシュフロー	△ 275	△ 436
財務活動によるキャッシュフロー		
有利子負債の増減	△ 3,033	△ 266
その他	△ 44	△ 48
財務活動によるキャッシュフロー	△ 3,078	△ 315
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,307	5,860

- ◇営業活動によるCFは売上債権の増加及びたな卸資産の増加、仕入債務の増加等資金増減により21百万円のマイナス
- ◇投資活動によるCFは金型等の取得、ITソフトウェア購入等により436百万円のマイナス
- ◇財務活動によるCFは短期借入金増加、長期借入金の返済等により315百万円のマイナス

財務計数(連結)

		10/3期	11/3期	11/9月	12/3期中計
有利子負債	(百万円)	21,073	19,159	18,716	16,600
D/Eレシオ	(倍)	1.6	1.4	1.4	1.1
債務償還年数	(年)	7.8	6.5	※ 7.2	5.6
インタレストカバレッジレシオ	(倍)	7.1	6.5	-	5.4
自己資本	(百万円)	13,060	13,602	13,203	14,400
自己資本比率	(%)	25.9	27.7	27.3	30.4
ROA(総資本経常利益率)	(%)	1.9	3.2	※ 2.9	3.8
ROE(自己資本経常利益率)	(%)	7.3	11.7	※ 10.7	12.5
たな卸資産回転期間	(月)	1.9	1.8	2.0	1.8

※債務償還年数、ROA、ROEは2Q実績を年換算

◇東日本大震災の影響を踏まえ、手元資金を厚めに確保すると共に、たな卸資産を積み増したことから、財務計数は計画値を下回る

◇自己資本は純利益の計上、円高による海外子会社株式為替換算損(「為替換算調整勘定」)の増加等により399百万円のマイナス

2012年3月期 通期業績見込み

通期業績見込み(連結)

(百万円)

	11年3月期 実績	12年3月期 見込み	増減 (前期比)
売上高	36,094	35,500	△594
営業利益 営業利益率	2,115 5.9%	1,550 4.4%	△565 1.5P減
経常利益 経常利益率	1,592 4.4%	1,100 3.1%	△492 1.3P減
当期純利益	799	450	△349
為替レート (円/US\$)	85.71	80.00	△5.71

※今期見込みについては、為替が先行き不透明、米国を始め、欧州の財政状況混迷による景気回復の減速傾向等を勘案し、当初の見込みを据え置いている。

【家庭用機器事業①】

【海外ミシン販売】

- ▶ 当社のトップフラッグ機種「Memory Craft12000」を発売開始
(本年10月1日)

クリスマスシーズン最盛期を迎え、主に北米、大洋州、欧州市場で、売上最大化を図る 【今期販売計画:5,000台】

また、展示会等への出展や宣伝広告等、積極的な販売促進の打ち出しで販売を拡大

- ▶ 統括事務所を開設した南米地域において販売を強化
(チリ・ブラジル・アルゼンチン等)

特にブラジルではワールドカップ開催に向け、経済環境も上向く中、市場の活性化を図る

【家庭用機器事業②】

【海外ミシン販売】

- USHA社との長期業務提携に基づくインドを含むアジア地域等引き続き、新興国市場で売上を拡大

【国内ミシン販売】

- 国内市場は、製品ラインアップの再構築や、手芸量販店等の販売チャネルの強化で拡販を図る

【産業機器事業】

- 上海現地拠点を活用、中国国内におけるサービスの強化と販売を拡大
【今期販売計画：1,000台】(ロボット、エレクトロプレス)
- 廉価版卓上ロボットの市場投入(本年12月1日出荷開始予定)等、製品ラインアップの拡充で競争力を強化
【今期販売計画：1,000台】
- 拡大する高度精細な技術を要する分野(スマートフォン、IT機器、家電商品 他)での販売拡大

【生産・研究開発部門】

【原価低減による価格競争力の強化】

- 調達部品コストの削減
- 東京工場での海外部品調達率引き上げ
- ジャノメタイランドでの来期生産台数120万台体制の構築
- 研究開発部門の強化と開発スピードアップ
- 基礎研究開発の充実

本日は誠にありがとうございました。



本資料で記述されている計画・予測等は、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。
 そのため、実際の業績は、様々な要因により記述されている計画・予測等とは、大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。
 なお、実際の業績に影響を与え得る重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動等が含まれます。

蛇の目ミシン工業株式会社